

〔1〕本の基礎知識

最初から商業出版をめざすなら、自分で製本までする必要はありません。ですが、絵本は、表紙や見返しも含めて「作品」として成り立つものでもあります。

したがって、まずは1冊全部、世界にただひとつのものとして仕上げることを勧めます。本の形を理解しておく、絵本づくりの幅がさらにひろがり、独自の1冊を作ることができます。

■本の構造

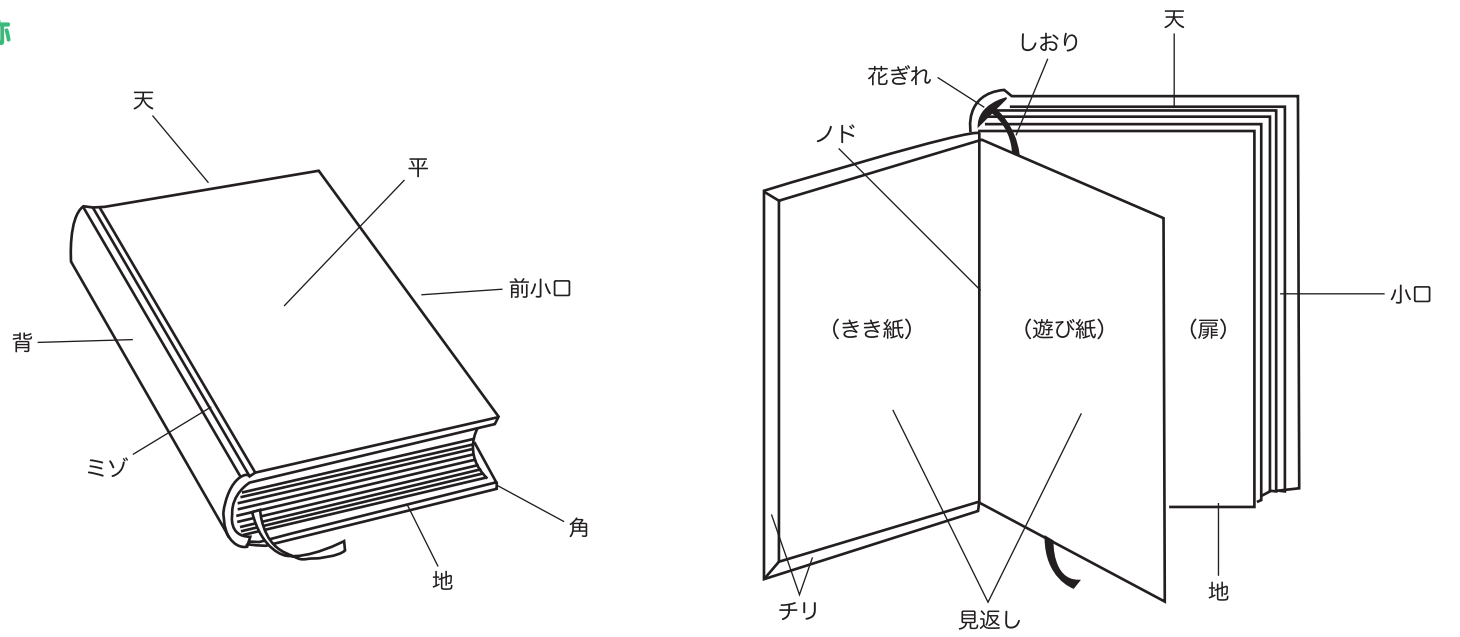
「本」は簡単に言うと、「表紙部分」と「中身部分」、「表紙と中身をつなげる部分」の3部分から成り立っています。それぞれの部分には、独特の言い方、専門用語があります。

たとえば、「上、下」は、「天、地」と言い、画面中央の綴じられる

ところを「ノド」、背中のタイトルが入る部分は「背」と言います。

もっと専門的なのは、表紙と中身をくっつけている用紙のことを「見返し」と呼びます。その「見返し」も厳密には、表紙側を「きき紙」、扉側でワンクッションになるほうを「遊び紙」となります。

■本の名称



※通常、一般書では、巻末(後見返しをめくったページ)に「奥付(おくづけ)」が入ります。

「奥付」とは、書名・著作者・発行者・印刷者・出版年月日・定価などを記した部分をいいます。

■紙の目

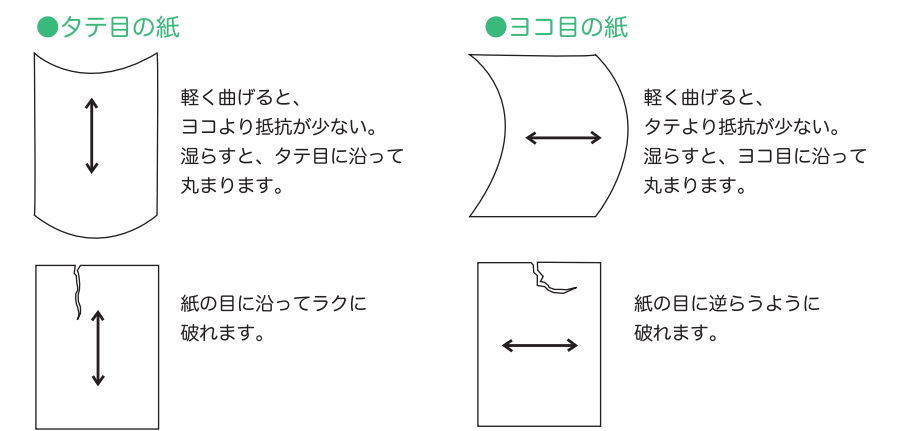
紙の繊維が並んでいる方向のことを言います。

〈紙の目を調べる方法〉

カットされた用紙を、軽く曲げてみたり、湿らせたり、破いてみたりすると、その紙の「目」が分かります。まったく同じサイズの紙でもタテ目だったり、ヨコ目だったりするので、使う前に目の方向を確かめてから使うようにします。

まず紙を湿らせてみると、すぐに紙が反り上がってきます。その反り上がる原因は、「目」を持った紙が湿気を帯びると、目の方向に向かってはあまり伸びず、逆の方向には大きく伸びるのですが、その「伸び率の差」が「反り」として現れます。

※製本の時は、タテ目になるように揃えることが重要です。



■紙のサイズ / 紙の厚さ

現在、身近なところで使われている紙のサイズの主流は、A4判とB5判です。

パソコンのプリンタなどで一般的に使われている紙のサイズがA4判、大学ノートのサイズがB5判です。

それぞれの正確な寸法は、JIS規格によって決められています。

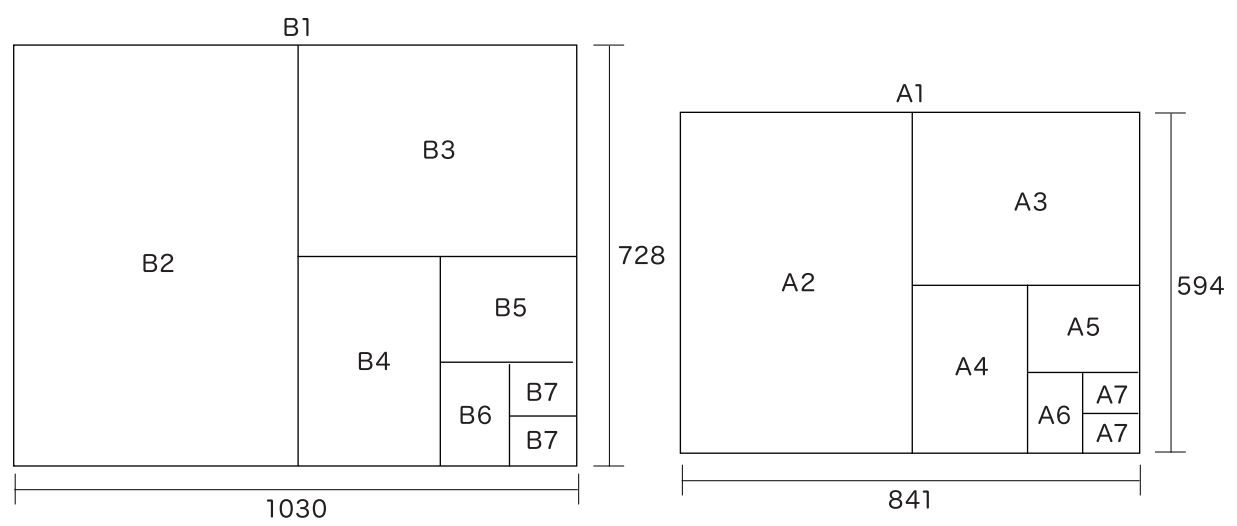
A4判やA3判など、Aと数で表されるグループは、A列と呼ばれ、A1(594×841)を基準として、図のように、A1を半分にするとA2、A2をさらに半分にするとA3、A3を半分にするとA4という関係になっています。B5判やB4判など、Bと数で表されるグループは、B列と呼ばれ、B1(728×1085)を基準として、B1を半分にするとB2、B2を半分にするとB3となります。

紙の厚さは、「90キロ」「110キロ」「135キロ」と表示されています。この「キロ」というのは重さの「kg」のことです。「原紙1000枚分の重さが何kgになるか」で、紙の厚さを表します。

原紙とは、紙のもとの大きさで、A列の原紙はA列本判といって625×880(A1判の用紙が取れる大きさ)、B列の原紙はB列本判といって765×1085(B1判の用紙が取れる大きさ)になっています。

原紙が違えば、同じ種類、同じ厚さの紙でもキロ数の表示は違います。同じ種類の紙なら、重いほど厚いということです。

●印刷物規格サイズ(mm)



Bサイズ (mm)

B0	1030×1456	B5	182× 257
B1	728×1030	B6	128×182
B2	515× 728	B7	91×128
B3	364× 515	B8	64×91
B4	257× 364		

Aサイズ (mm)

A0	841×1189	A5	148×210
A1	594×841	A6	105×148
A2	420×594	A7	74×105
A3	297×420	A8	52×74
A4	210×297		

〔2〕作品の持ち込み

絵本を作りたい!…からはじまって、いよいよ実際に作品として出版社に売り込む場合の準備から出版社に持ち込むまでの流れを説明します。
(ここでの出版は、商業出版を指します。)

【心構え】……………

●作品を周りの人に読んでもらおう

まず、身近な家族や友人。できれば子どものいる友人や知り合いにも読んでもらいましょう。作り手(制作者)はずっと自分の絵本(作品)に浸かっているので、客観的に見るのが難しくなります。

その点、自分以外の第三者は、先入観なく素直に向き合えるのです。特に子どもの反応は正直なので、興味を示す箇所や飽きる箇所など、絵本の全体を通しての感想などを聞くとよいでしょう。

●絵本・出版社を知ろう

自分が好きな絵本がどこから出版されているか、自分の作品の傾向(作風)がどの出版社により近いかなど、とことん下調べをすることが重要です。持ち込みたい出版社の絵本は、アポイントを取る前にできるだけチェックしておきましょう。

自分なりに良い作品ができたと思っても、その勢いだけで好きな出版社に持ち込んでも傾向がずれていれば相手にもされません。

具体的に、自分の作風が、かなり乳幼児向けとか、マニアックな傾向が強いものとか、読者を制限するものであれば、なおさら、持ち込む出版社を選ぶ必要も出てくるでしょう。



●持ち込み3点グッズを準備しよう

A. 製本した絵本作品

自分の作品ができれば、簡単でもよいので本の形にしましょう。どの出版社の編集者さんも暇ではありません。自分のイメージがうまく伝わるよう「本」という体裁で、画面ごとにことば(文章)が入った状態で見てもらうようにすると、かなり印象がよくなります。

まずは相手の立場を考えてのことですが、この時点で気づくことも多いのです。

B. 作品集(ポートフォリオ)

絵本や原画以外に今まで作った作品をひと目で見渡せるようなファイル(規格としてA4サイズ)を作ります。それをファイルフォルダーに差し込んで、作品集とします。



C. 名 刺

作品に気をとられて忘れがちですが、「名刺」は、自分を売り込む大事な道具です。あとあとに連絡をもらうことが多い業界なので、できるだけ、自分らしく好感の持てるものを用意しましょう。



はじめから完全無欠の絵本は存在しません。だからこそ、しっかりアドバイスをもらえるような工夫やいろいろな準備をすることが重要なのです。

●具体的に動く

◎出版社とアポイントを取る

作品を持ち込む「心構え」ができれば、「持ち込み3点グッズ」の準備をして、持ち込みたい出版社に電話をかけましょう。

1. まずメモと筆記用具を用意して、出版社名、電話番号これから話す内容を箇条書きにしておきます。

2. 次に、出版社の代表番号に電話し、担当部署につないでもらいます。

3. 担当者が分かっていたら、先に自分の名前と用件を述べ、「〇〇さんをお願いします」でかまいません。

もし担当者がわからなければ、「絵本持込みの担当の方につないでいただけますでしょうか」で、つながります。担当者につながったら、改めて、自分の名前と用件を述べたあと、必ず相手方のお名前を聞いておきましょう。



◎出版社に作品を持ち込む

1. 当日は、できるだけ早めに出発します。30分でも 1時間でも余裕があるに越したことはありません。早めに到着して、社屋の周囲を一周するくらいの気持ちを持って臨みましょう。

2. まず受付で自分の名刺を出し、用件を伝え、担当者と呼んでもらいます。

3. 担当者が現れたら、挨拶とともに名刺を渡し、時間を割いてもらえたことに対してお礼を述べましょう。

4. 近所の人でなく、プロの編集者に見てもらうのですから、どんなアドバイスも聞き逃さない姿勢が大事です。一生懸命に聴く態度があれば、未熟な作品にでも好意的なアドバイスがもらいやすくなります。

5. 見てもらったら、きちんと感謝の気持ちを伝えて帰りましょう。帰ったあとは、なるべく早いうちにお礼状やお礼メールを入れておくと、さらに印象がよくなりますし、今後のお付き合いにつながっていくかもしれません。実は、こういうアフターフォローが、簡単そうでなかなか難しいのです。

6. 一度いただいた名刺は大事に保管し、できれば定期的にメールなどで挨拶を入れ、その後の作品について進行具合などをお知らせしてみましょう。編集者との相性がよさそうなら、再度、作品を見てもらう機会を作ってレベルアップを図りましょう。